

授業改善書

科目名	国際経営論
担当者	菰田文男

授業の概要

本講義では、長く続いている日本経済の低迷の原因の一つは消費の低迷、民間企業の設備投資の低迷にあること、さらにその背景には日本企業が消費者のニーズにあった財やサービスを開発し提供できていないことにあるという認識に立ち、なぜこのようなニーズにあった財やサービスの提供ができないのか、そしてまたこのような現実の克服に必要な施策について論じた。そのために国民経済計算をはじめとする日本経済のマクロ指標に基づいて現状を認識することから始め、とくに消費意欲が低下しているとされている若い世代の価値観の変化とそれに対する企業の認識の欠如などについて解説した。そして、最後に消費者のニーズ、とりわけ若い世代のニーズを企業が理解できないようになるためには、企業の人材の育成が不可欠であると論じた。

テーマの性格上、理論的な説明と実証的な事例紹介とがともに必要であり、また取りあげる産業も多岐にわたらざるをえないので、15回の講義で扱うには情報・知識量が多くなりすぎるということになってしまう。したがって、毎回の講義においては、講義内容についての資料を配付するとともに、パワーポイントとプロジェクターを用いることによって、限られた時間内に受講生に対して必要な内容を正確に理解してもらえることを心がけた。

授業の問題点

講義においては、理論的・抽象的な解説と、具体的・実証的な事例の提示とをバランスよく組み合わせることで学生の理解を促すことを心がけた。単に情報の獲得のレベルにとどまるだけでなく、知識にまで高められるためには抽象理論・原理が現実社会とどのように結びついているかを理解することが不可欠と考えるからである。しかし、その結果として上述のように必然的に扱う情報・知識量が多くなってしまった。したがって、毎回の講義で内容の要約や統計データを資料として配布することによって、対処した。資料については、「分かりやすく」を心がけるために、できるだけ図を多用するように心がけたのであるが、これは確かに有効であったと考えられる反面で、「プリントに文章を増やしてほしい。言葉の説明をプリントに増やしてほしい」という否定的なコメントもあった。分かりやすさを大切にしたいため、あるいは講義時間の中で理解できるように直感的にイメージできることを重視したために、授業終了後の復習にとってはもう少し難解であっても詳しい説明が必要なのかもしれないと考え直している。

同様に、プロジェクターを用いてスクリーン上で情報を共有することによって解説する際も、直感的な理解が可能となるように、文章ではなく画像や図で表現するように心がけたが、そうすることによって逆に理解が表面的になりがちになっているのではないかという側面も考慮すべきかもしれないと、再考している。

授業改善の課題・方策

扱うテーマについては、消費者のニーズあるいは価値観という大変複雑で日々変化し捉えがたい事象を扱うために、多くの知識とそれを結びつけて理解することが求められるので、そのための努力が必要と考えている。しかもそれを分かりやすく咀嚼して説明することは難しい作業である。そのために自ずと盛りだくさんとなってしまっていて、受講生の消化不良になりがちである。したがって、扱う事例を的確に選別してゆくことが必要と考えている。

ただあまりにも分かりやすさを重視しすぎることと、物足りなさとは表裏一体であるので、両者のバランスを正しくとりつつ論じることが必要である。

また、経済は日々進化するので最新のデータや事例をフォローして、ダイナミックな「生」の経済を受講生が学ぶことができるように努めることも必要である。

それ以外にも、資料の作成やパワーポイント作成にかんしても、理解を容易にするためのテクニカルな部分的改善も必要である。

その他

特になし